

広里地区自然再生事業について

平成30年6月15日

環境省釧路自然環境事務所

【 目 次 】

- 1 広里地区の概要
- 2 今までの経緯
- 3 今年度の業務目的
- 4 今年度の実施内容（1）
- 5 今年度の実施内容（2）

1 広里地区の概要

広里地区は湿原再生手法を検討する場

ハンノキ林

現状

1970年代頃ハンノキ林が急激に拡大

原因

地下水位の低下・安定下、
1967年の湿原火災

旧農地区域

現状

1960年代後半以降、湿原植生の劣化

原因

旧雪裡川の分断、農地造成による水位低下

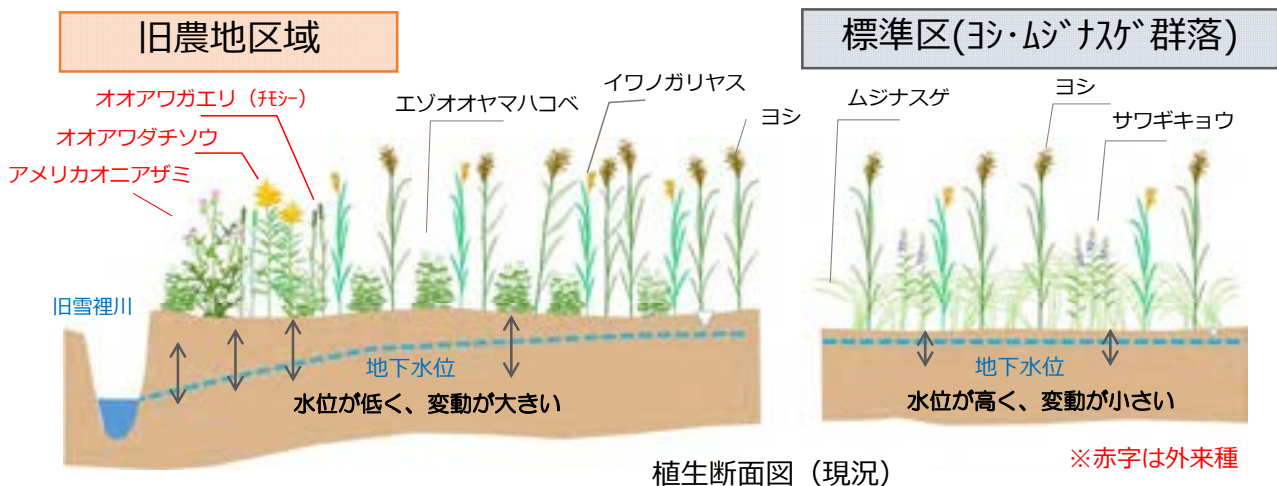
周辺環境

旧農地区域の対岸：ダイコン畑

旧農地区域に隣接する旧雪裡川：タンチョウが利用



旧農地区域の目指す姿 (ヨシ・ムジナスゲ群落)

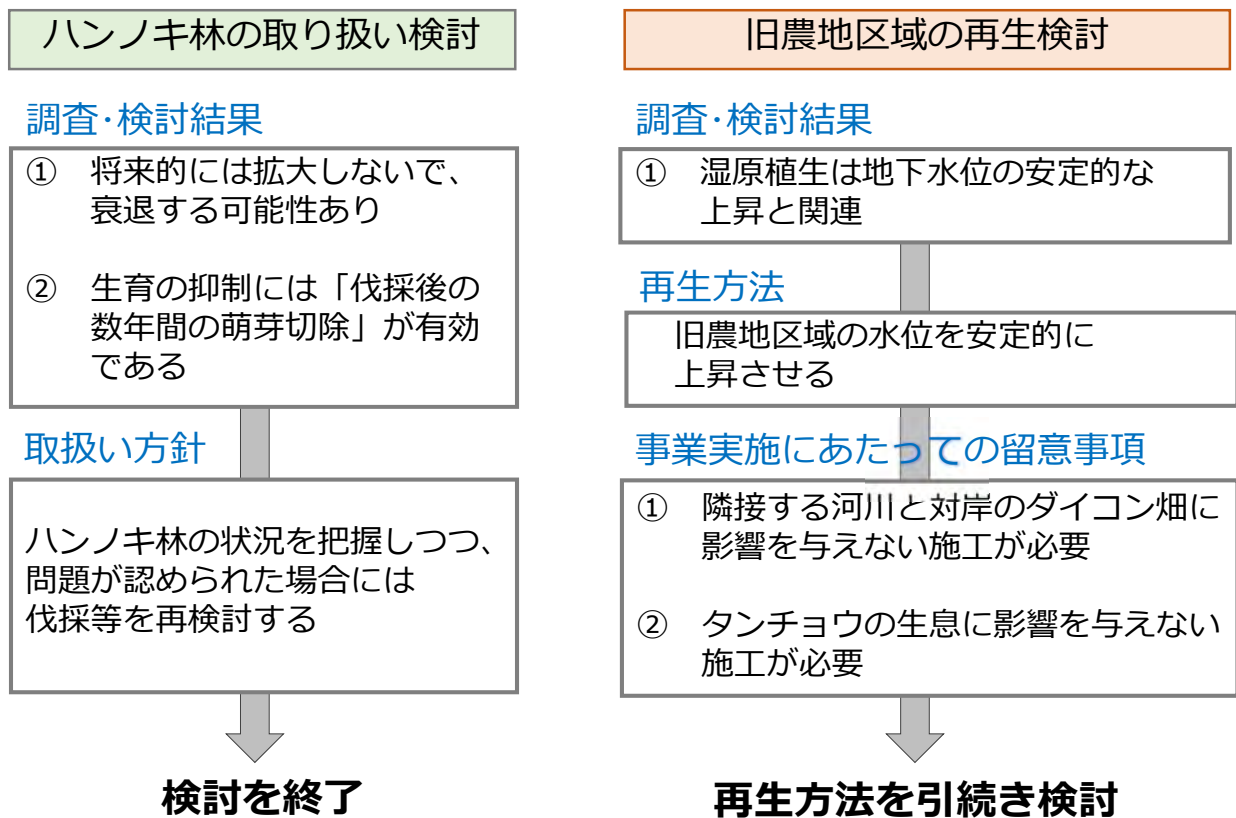


旧農地区域：地下水位が**低く、変動大**
 標準区：地下水位が**常に高く、変動小**

地下水水位状況の違い
 ≡ 植生の違い

地下水水位を**安定的に上昇させる** ⇒ **標準区の植生を目指す**
 (ヨシ・ムジナスゲ群落)

2 今までの経緯（1）



2 今までの経緯（2）

検討結果

- 遮水壁設置を検討した結果、効果（水位上昇の範囲）は限定的・不確実
- より深くまでの遮水壁設置は不可能
- 現時点における旧農地区域の遮水壁の設置は困難

⇒ 旧農地区域の検討を終了

今年の方針

- 広里地区では湿原の**再生手法の検討の場**として事業を実施してきた
- これまでの調査・試験・検討の**データや経験を**釧路湿原や他の**湿原再生へ還元**していく

3 今年度の業務目的

●業務1 事業成果のとりまとめ

目的 事業の実施・検討の中で得られた知見は、他の再生事業へ活用することが期待される。このため、収集された知見の整理ととりまとめを行う。

●業務2 現状把握調査

目的 植生の再生を検討してきた旧農地域（掘り下げ試験区を含む）において、検討の終了にあたり、水環境及び植生の現状を調査し、事業開始時からの変化の有無を把握する。

4 今年度の実施内容（1）

●業務1 事業成果のとりまとめ

・検討項目から得られた成果

例) ハンノキ林の抑制手法、農地に隣接する地区の植生を回復させる手法と課題

・調査観測データ

例) 地下水位、植生、地質

・釧路湿原での調査実施に関する成果

例) 調査手法、留意点

4 今年度の実施内容（2）

●業務2 現状把握調査

植生調査

掘り下げ試験区を含む旧農地域と標準区において、過去のデータと比較できるプロットを再現し、群落組成調査を行う。

水位観測

掘り下げ試験区を含む旧農地域と標準区において、過去のデータと比較できる観測孔を再現し、水位観測を行う。

